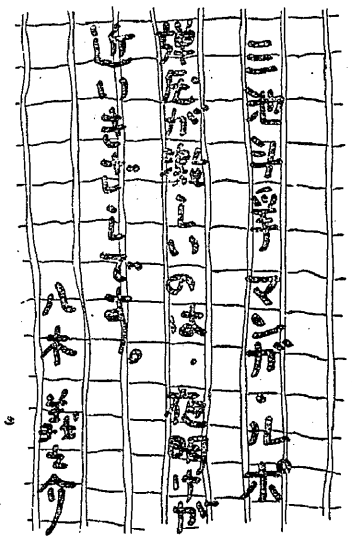
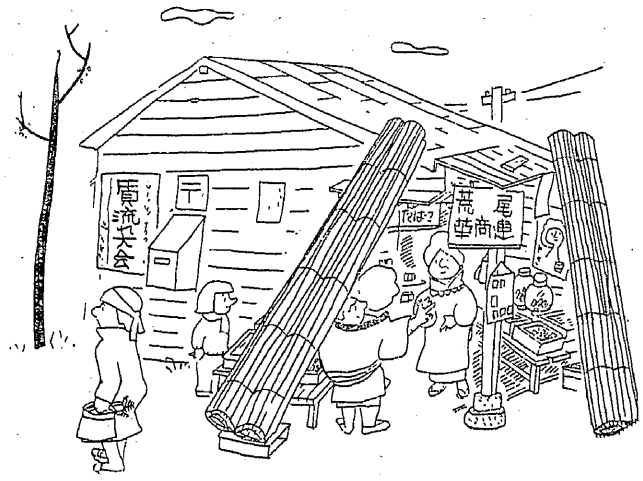
昭和29年9月25日
第三種郵便物認可

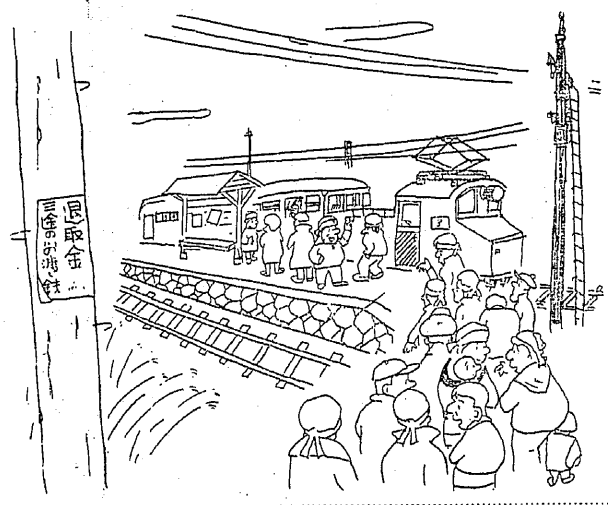


このマンガ・ルポは、炭労教宣部の派遣で〝三池闘争〟を取材にこられたマンガ家、八木義之介さんに特別に寄稿していただいたものです。八木さんは、三池には四日間滞在していましたが、その四日間を緑ガ丘社宅に泊つたり、組合本部で徹夜をしながら、原稿取材したスケッチなどを整理して、せつせとマンガルポをまとめていました。そして、帰京の日も「電車の時刻まであと一時間ばかりあるから何か仕事があつたら何でもしますよ」という、全くの献身ぶりでした「みいけに来てとてもよかつた、みいけの闘いの本当の姿がわかつた。全国にひろげなければならない」といいながら、大きな画用紙に描いた岩田屋労組におくる絵をかかえ、前かがみの恰好でひようひようと大牟田を去つていつた八木さんは、愛すべき仲間です。【編集部】



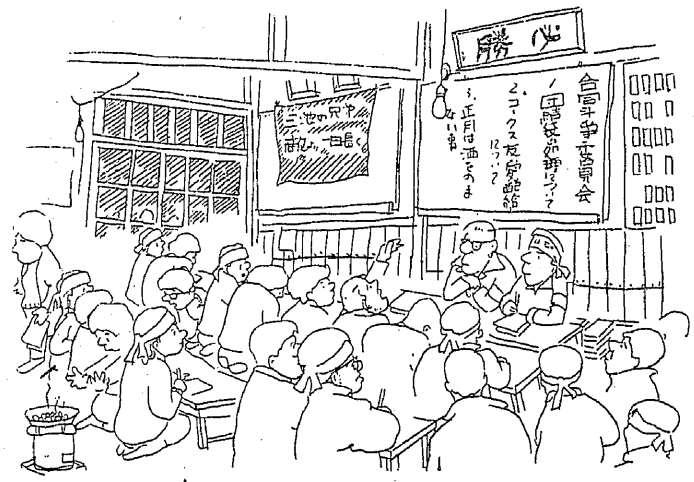
〝おみそ二〇〇グラム下さい〟

炭住地の革商連と主婦たちとはよい顔なじみ、勝つまではお互いに苦しいけれど、しつかりと腕をくんでいこう。



〝さあでかけようぜ〟

父ちやんも母ちやんも仲よく通勤電車にのる。今日も、くり込み場で会社に抗議をするんだ。



〝正月は酒をのまない〟

炭住のなかにある地域分会での会議、酒ずきらしい人が手をあげて正月の禁酒を提案する。

〝このギブスをみてくれ〟

ケイ肺とカリエスを診断された西川さんは、職制のまえで奴らの非人間的な態度に怒りをぶちまける。

一九六〇年からのレポート
ミサイルも博物館も
社会主義か資本主義か

人類の関心事

一九五九年 内外十大ニュース

＝KNA選定＝

世界政治　地球上からいつさいの戦争が消えても六年。昨日まで、やれミサイルだ、ジエツト機だと国民の税金の取り立てに狂奔していた各国の首脳たちは、いまやあたらしい戦争にかりたてられている。社会主義と資本主義のどちらが国民生活を向上させるかという平和な経済競争が国際政治の中心にすわつてるからだ。十年前、フルシチョフ・ソ連首相が国連演説で「だれがより多くの水爆やロケツトをもつているかでなく、だれが国民のためにより多くの病院を建て、より多くの穀物、ミルク、肉、衣類、その他の消費物資を生産するかで競争しよう」といつたことがいまや全世界に実現して、各国民の生活はみちがえるように向上した。

十年前までは一年間に世界で使われる軍事費の額は一千億ドル（三十六兆円）というとほうもないものだつた。いまになつて人々は、博物館に陳列されている誘導弾エリコンを眺めながら「なんだつて高い金をかけてこんなつまらないものを作つたのだろう」と首をかしげている。そればかりではない世界各国の予算から軍事費というもののなくなつたいま、東南アジア諸国の住民たちもハダシで歩きながら鉄鋼をかつぐような真似はもうしなくてもよくなつた。

日本の政治　この十年のあいだの日本の政治の変りようもはげしかつた。「台湾は正当な国家である」などというたわごとは中国が国際連合の舞台ではなはだしい活躍をしている今日ではさすがに通用しなくなつたばかりでなく、政治、経済金融にわたつて政策の転換をせざるを得なくなつてきた。中国とのあいだにも自由な国交が回復され、東京―北京―モスクワ―ロンドン―ニューヨークを結ぶジエット旅客機が毎日羽田空港から飛び立つている。長い間厚かましい顔つきで日本の国内にひるがえつていた星条旗ももうそのかげをみない。沖縄は名実ともに日本の領土として回収された。

生活の上でも国民は過去のように台風の被害に身や心を痛めないですむようになつた。昭和三十五年度に防衛庁が企画した一兆五千億円の防衛計画はとつくに必要のないものになり、それはこんなふうに国民生活を豊かにするために使われるようになつた――。甲型駆逐艦一隻分の費用（約二〇億円）で一〇万人に生活扶助をあたえ、F86ジエツト戦闘機一〇機で生活保護基準は倍額に引きあげられ五トン戦車一台分（一億二千万円）で木造一〇坪のスイートホームが三五三戸も建つた。

科学技術　産業界をのぞいてみると、原子力学の異常な発達とならんで〝斜陽〟といわれた石炭をふたたび新しいエネルギー源としてよみがえらせた。いまや石炭はガス燃料、化学原料として脚光をあび、採炭も〝ソ連ではじまつた水力採炭方式の採用によつてパイプを通してどんどん地上へほり出されている。さらに科学は宇宙へ向つてますます発展し、かつて新聞のトツプをかざつた月の裏側にも、いまはもう人類が二本の足で立つている。月ロケツトが地球と月のあいだを往復しているばかりでなく、月の宇宙ステーションもこのほど完成された。日本をふくめた各国の科学者が一堂に集り、つぎの目標である金星、木星到達への作戦に余念がない。消費生活面の改善もすばらしい。スイツチ一つで操作できる小型の電子冷暖房機がつい最近安く売り出されて、デパートの人気ものになつた。こうして生産面でも消費面でもはなやかなオートメーションの時代を迎えて、いまや各国民の関心は「社会主義が是か資本主義が是か」ということに向けられてきた。

（以上の記事は経済評論家木村喜八郎、技術評論家星野芳郎、科学評論家金並不二雄、政治評論家長島又男の諸先生の協力を得ました）

戦前・戦中・戦後の三派が語る
ネズミどしわたしの発言

一九六〇年はネズミどし。そのネズミにちなんで、各界に活躍するネズミどしの方がたを戦前（明治四十五年生）戦中（大正十三年生）戦後（昭和十一年生）の三代にわけてアンケートをもとめた。題して〝ネズミどしわたしの発言〟（順不同）

〈質問〉

(1)今年のあなたの抱負は？
(2)好きな音楽と感動した映画は？
(3)独立国として軍隊がないと馬鹿にされるという意見がありますが、あなたの考えは？
(4)安保条約改定がやかましい政治問題となつていますが、日本の安全を守る最良のみちは？

戦前派

総評議長　太田薫

(1)大幅賃上げ、期末手当、生活保護の倍増をかちとりたい。
(2)頭が痛くなるのはみたりきいたりしない。音楽はこどもといつしよに。最近の映画では「鉄道員」。
(3)ミサイル時代に自衛隊など戦力にもならない。軍隊は無用。
(4)今日の時代では積極的中立政策心配なら各国不可侵条約を結ぶ

作家　柳　二美

(1)いい小説を書きたい。それから健康になりたいと思つています
(2)だいたい音楽はぜんぶ好き。映画では「黄色い大地」。
(3)軍隊をもたなければならないのはどこかに弱味をもつているからではないでしようか。
(4)ひとりひとり立派になること。日本じゆうの人間が人間をいたわる心をもつたときこんな条約など考えもしなくなる。

経済学者　内田穣吉

(1)革命の平和的移行の可能性のための経済的土台の研究。
(2)「アンネの日記」「人間の壁」
(3)わが国が外国軍隊の一掃に成功し、自衛隊の急減を実行するなら逆に諸国民の尊敬をかちとる
(4)日米ソ中四ケ国による集団安全保障条約の結成が最終的に日本を安全保障します。

参議院議員　小柳勇

(1)北九州産業開発の促進、特に八木山ダム那珂川南畑ダムの建設
(2)「道」の主題曲、「人間の壁」
(3)軍隊の有無が国際問題解決の鍵でなく、自主独立を主張できる指導者の有無の問題である。
(4)日中、日ソの平和確立、日米中ソ四ケ国の集団保障体制を作る

戦中派

将棋八段　五十嵐豊一

(1)別になし。
(2)軽音楽。映画は最近見ておりません。
(3)弱い国が強い国に馬鹿にされるのは世界の情勢でしよう。（軍備の有無に不関係）
(4)意見なし。

作家　吉行淳之介

(1)短篇集をまとめること東京新聞に小説を書くので成功させたい
(2)ジヤズ、クラシツクをそのときの気分で。感動しないが感心したのは「北北西に進路をとれ」
(3)馬鹿にされても戦争にまきこまれないほうがまましも。
(4)条約改定には反対。

戦後派

映画女優　中原ひとみ

(1)今年は結婚生活にはいりますので、仕事と家庭を両立させたい
(2)イブ・モンタンリサイタル。感動したのはよくないが「鉄道員」
(3)再軍備には賛成できません。
(4)どこの国とも軍事同盟を結ばずに中立を守るのがよいと思う。

共同印刷労組青年部　久保田毅

(1)安保改定阻止の闘いをじぶんの問題として全力をつくしたい。
(2)レコードを聞くことが好き映画「にあんちやん」「人間の壁」
(3)軍隊の必要性は感じない。
(4)改定にぜつたいに賛成できない

都学連執行委員　田中一行

(1)専門の経済学の勉強をしたい。学生運動の勢力をたかめるとともに、日常の文化的、経済的な運動に手を伸ばしたい。
(2)クラシツク。バツハ、ベートーベン。映画は、晃る暇がないが「アルピニスト岩壁にのぼる」
(3)軍隊は他国民へたいする支配階級の利益を守るため。そのような軍隊はむしろもたないことを誇りとする。
(4)安保体制を破り、平和を守るのは労働者を先頭とする政治的な闘いによつてのみ実現される。

一九五九年 内外十大ニュース

＝KNA選定＝

◆**月ロケツト成功**　ソ連は一月二日宇宙ロケツトを打上げ、第二号ロケツトは九月十二日、月に命中した。十月四日には宇宙ステーションを打ち上げ、月の裏側写真の撮影に成功した。

◆**ソ連で新七カ年計画**　一月二十七日から二月五日までモスクワでソ連共産党二十一回大会が開かれ、一人当りの生産高で米国に追いつくことをめざす新七カ年計画を採択した。

◆**安保違憲の砂川判決**　東京地裁伊達裁判長は三月三十日「一九五九年」内外十大ニュース＝KNA選定＝

◆**月ロケツト成功**　ソ連は一月二日宇宙ロケツトを打上げ、第二号ロケツトは九月十二日、月に命中した。十月四日には宇宙ステーションを打ち上げ、月の裏側写真の撮影に成功した。

◆**ソ連で新七カ年計画**　一月二十七日から二月五日までモスクワでソ連共産党二十一回大会が開かれ、一人当りの生産高で米国に追いつくことをめざす新七カ年計画を採択した。

◆**安保違憲の砂川判決**　東京地裁伊達裁判長は三月三十日「安保条約にもとづく刑特法は憲法に違反する」との画期的な判決を行ない、七被告に無罪を言い渡した。政府は「跳躍上告」した。

◆**安保阻止闘争の発展**　三月二十八日改定阻止国民会議が結成され、十次にわたる統一行動をくり返した。原水禁大会や母親大会も反対を決め、政府の調印予定は引き延ばされている。

◆**ダレス国務長官の死**　冷戦の立役者ダレス米国務長官は五月二十四日ガンのため死去したハーター氏が後任に選ばれたが、ダレスの死は米冷戦外交の転換の始まりとして注目された。

◆**全米鉄鋼スト**　七月十五日、全米鉄鋼労働者五十万は賃上げ要求してストに入つたストは百十六日間つづけられたがタ・ハ法が発動されたため一時ストを中止した。

◆**松川裁判、原審破棄**　八月十日最高裁は注目の松川事件について「二審判決破棄、裁判やり直し」の判決を言い渡した。判決は七対五で少数意見がついており、現在仙台高裁に継続中。

◆**フルシチョフの訪米**　九月十五日、フルシチョフ・ソ連首相の訪米が実現し、世界の緊張情勢は決定的になつた。特に十八日には国連総会で完全軍縮提案を行ない、熱烈な支持をうけた。

◆**伊勢灘台風で大被害**　九月二十六日東海地方を襲つた台風十六号は死者、行方不明五千名をこえる史上最大の被害をもたらした。秋の臨時国会では政府の水害対策が鋭く追及された。

◆**石炭不況と合理化攻勢**　中小炭鉱の閉山が続出し「黒い羽根」運動が行なわれた。一方大手経営者は三年間に十万名の首切りを発表し、三鉱連を中心に合理化反対闘争が闘われている。